

収穫作業は、大豆の成熟具合と天気を見極め適期に行いましょう。
収穫前に雑草や青立ち株を抜取り、汚損粒の発生を防ぎましょう。

1 生育状況

- ・6月以降の平均気温が平年より高く、降水量は平年よりやや少なかった。日照時間は平年より多かった。
- ・県生育観測ほの9月10日時点の生育は、草丈・主茎長ともに平年を上回り、着莢数は平年並だった。
- ・生育の旺盛なほ場で倒伏が発生しており、収穫時は汚損粒の発生に注意が必要。
- ・生育の早いほ場は10月中旬頃から収穫適期となる見込み。
- ・収穫適期はほ場により異なるため、大豆の状態をよく観察するとともに、速やかに収穫ができるよう早めに作業機の清掃やフレコンバッグの準備等を行う。

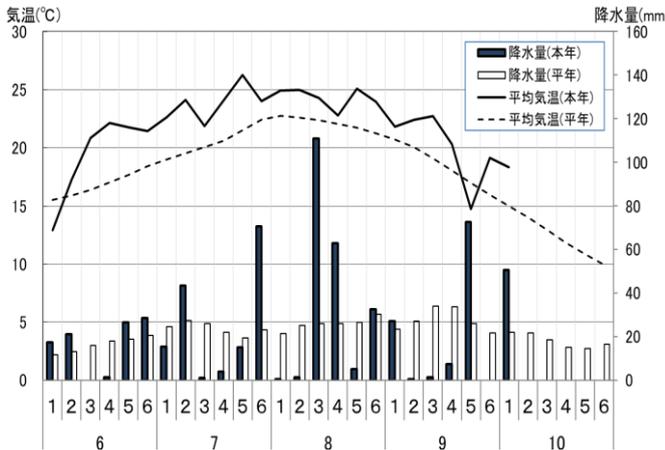


図-1 平均気温と降水量

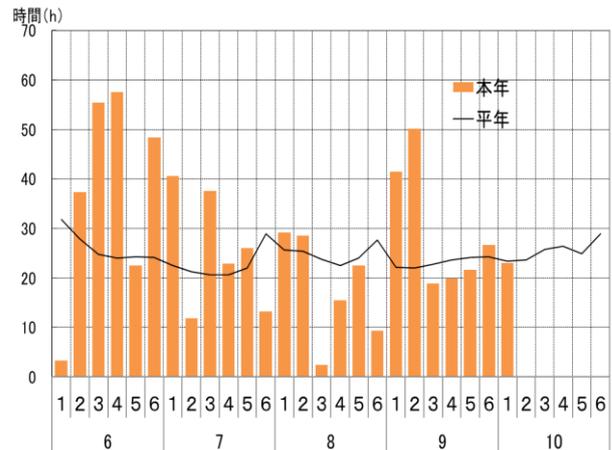


図-2 日照時間

表-1 生育状況調査結果

地点名	年度	生育ステージ				出芽本数 (本/m ²)	9月10日			
		は種期	出芽期	開花期	成熟期		草丈 (cm)	主茎長 (cm)	葉数 (枚)	総莢数 (莢/本)
県生観	本年	6月9日	6月15日	7月27日		14.8	123.1	84.4	15.4	40.7
	平年	6月7日	6月14日	8月4日	10月12日	14.1	112.6	76.6	14.6	40.5
	差・比	遅2日	遅1日	早8日		106	109	110	105	101
地区生観	本年	6月9日	6月15日	7月26日		19.4	90.8	55.3	13.4	35.4
	平年	6月1日	6月9日	7月29日	10月12日	17.3	98.7	59.8	13.7	30.5
	差・比	遅8日	遅6日	早3日		112	92	92	98	116
晩播狭畦	本年	6月27日	7月2日	8月5日		33.7	98.3	67.9	13.7	23.2
	平年	6月25日	7月2日	8月10日	10月19日	26.9	92.4	52.0	11.3	23.0
	差・比	遅2日	±0	早5日		125	106	130	121	101

平年は、県生観: 令和3~5年、地区生観: 平成22~令和5年、晩播狭畦: 平成28~令和5年

2 収穫作業のポイント

- コンバイン収穫は、子実水分 20%以下、莖水分 50%以下になった時期を目安に行う。
- 莖水分 50%以下の目安は、莖を爪でこすったとき、表皮が乾いてむけない状態。
- 作業時間は露がない午前 10 時～午後 4 時が望ましい。

表-2 主莖の剥皮程度と莖水分

主莖中央部 剥皮の可否	莖水分	
	最小～最大 (%)	平均 (%)
爪でこすってむける	51.5～68.8	59.1
爪でこすってむけない	38.0～46.0	41.3

◎適期収穫で発生を防止できる障害粒

(1) しわ粒



【原因】子実肥大が不十分または収穫期の吸湿と乾燥の繰り返しにより発生する。

【対策】成熟具合を見極めて適期に収穫を行い、収穫後も急激に乾燥させない。

(2) 紫斑粒



【原因】開花 20～40 日頃の薬剤散布で防除できるが、刈り遅れや成熟期の降雨により発生が増加する。

【対策】成熟具合を見極めて適期に収穫する。

(3) 汚損粒



【原因】収穫した子実に、大豆や雑草の茎汁や土が付着して発生する。

- 【対策】
- ① 青立ち株や雑草は、収穫前に抜き取って除去する。
 - ② 降雨後や、朝露や夜露のある早朝や夕方は収穫しない。
 - ③ 土のかみ込みを避けるため、収穫作業は丁寧に行う。
 - ④ 倒伏しているほ場の大豆は他の収穫物と混ぜない。